

若手をより輝かせ、 成長させる活躍の場

横光健吾

立命館大学総合心理学部
特任助教

日本認知・行動療法学会第45回大会
R1/8/31(日) 11:00~12:30

R

若手の台頭なくして、その領域のレベルアップはない



(現状) 若手にあてられたスポットライト

- 認知・行動療法研究－内山記念賞
明確に受賞者が若手と決まっているわけではないが
基本的に若い人がとっている印象
- 国際会議における、若手国際学術交流助成金
満38歳以下と明確に若手を対象
若手の基準は科研費の基準を準用？
- 各種委員会にポスドクの若手を起用
大学所属の1～3年目の者が各委員会に数名配属

横光から 3つ 提案

- 若手を対象とした、年次大会におけるポスター発表賞
(来年にはできそうな提案)
- 若手の会の設立 or 若手の企画の新設
(来年にはできなさそうではあるが、
見切り発車でもよいので、走り出したい提案)
- ミート・ザ・エキスパート(or 仲間・同志)
(事前の打ち合わせ・調査で、意見の多かった提案)

提案①

若手を対象とした年次大会におけるポスター発表賞

■ いまでは、どこの学術大会においても
ポスター発表を対象に学会発表賞が存在

日本うつ病学会
Japanese Society of Mood Disorders

ホーム お問い合わせ サイトマップ 会員専用ページ/ログイン

学会について 学会活動 各種委員会 入会案内 一般の方へ その他

学会活動

ホーム > 学会活動 > 学会賞 > 学会奨励賞

学会活動
学会賞
● 学会奨励賞
● 下田光造賞

学会奨励賞

日本うつ病学会では、うつ病臨床の発展・充実に寄与する研究発表の奨励を目的とし、「学会奨励賞」を設けています。日本うつ病学会総会への応募演題（一般演題）のうち、該当年の1月1日時点で40歳以下の方が対象となります。

1. 医学分野
2. 医療保健分野

に分かれています。エントリー時に自己申告をします。

第14回日本うつ病学会学会奨励賞

対象
第16回日本うつ病学会総会への応募演題（一般演題）

選考方法と結果発表

エントリー
一般演題の各応募者（2019年1月1日時点で40歳以下の方を対象）にエントリーの意思を確認します。

第77回日本公衆衛生学会総会

The 77th Annual Meeting of Japanese Society of Public Health

テーマ ゆりかごから看取りまでの公衆衛生 ～災害対応から考える健康支援～

優秀演題募集

第77回日本公衆衛生学会総会では、若手研究者の育成を目的に、優秀演題賞を設けます。下記要領で募集いたしますので、奮ってご応募ください。

◇ 一般演題最優秀・優秀演題結果

一般演題最優秀・優秀演題結果 (PDF)

◇ 優秀演題募集要項

1. 応募資格
◇ 一般演題の発表者
◇ 2018年3月31日の時点で日本公衆衛生学会 会員歴15年以内の者
2. 対象となる演題
第77回総会で一般演題として発表するもの

医療保健分野

「行動活性化による抑うつ症状と不安症状の改善経路の検討 —ネットワークアナリシス—」
青木 俊太郎（北海道医療大学大学院心理科学研究科）

最優秀口演賞（3題）

演題番号	氏名	所属
O-0401-1	湊屋 街子	北海道大学環境健康科学研究教育センター
O-0601-5	りん りん	千葉大学大学院医薬学府
O-1302-4	竹林 由武	福島県立医科大学薬学部健康リスクコミュニケーション学講座

提案①

若手を対象とした年次大会におけるポスター発表賞

■ JACBT学会において、学会発表賞があると

若手や学会にとって良い理由(主観)

- ・ 業績としてカウント
 - 科研・人事において、どこまで役に立つのか不明
- ・ 年次大会において、その発表への注目度がアップ
- ・ 単純に、うれしい！モチベーションアップ！
- ・ 長期的にみて、若手の継続的な学会参加・発表参加
- ・ 学会の将来を担う、優秀な若手の発掘の1つの方法
- ・ 非会員(臨時会員)に対しても、
 - 門戸を広げれば、領域外の若手等の参加
 - 学際的な発表の増加

提案② 若手の会の設立 or 若手の企画の新設

- いくつかの学会では、若手のネットワーク形成等を目的として、学会の一組織として若手の会が設立



- ・年次大会における若手主催企画シンポジウム
- ・交流会、昼食会、懇親会
- ・年1, 2回の研究交流会
- ・将来の研究テーマの模索

若手の会の設立による今後の展望①

- たとえば、コロキウムのような臨床家が集まる会が
年に数回あるように、研究合宿のような形で開催

コロキウムと抱き合わせで、開催しても良いのでは！？

- 大会企画シンポジウムの1枠を若手に与えて、
若手が企画・人選を行い、大会がそれをサポート
するような仕組み

若手だけでは呼べない・企画できないことも、
学会のサポートがあればそれは可能なこともある！？

若手の会の設立による今後の展望②

- 若手が学会を通じて、「何かしたい！」と思った時の
意見集約の機能を持たせられないか？
 - ・現状、何か学会に対して、意見を持った時に
どこに向けて発信すると良いか不明
(そもそも、そのような仕組みがない?)

若手の会の設立・若手企画によるメリット・デメリット

メリット

若手の臨床家・研究者間のネットワーク構築

各研究室をまたいでの、臨床・研究活動の活性化

若手が発言・発信する機会の増加

エネルギー・エフォートのある若手の育成

学会をまたいでの、「若手の会」間での交流も可能？

デメリット

組織して数年たった後に引き継いだ若手はなんでやっているのか、わからなくなる

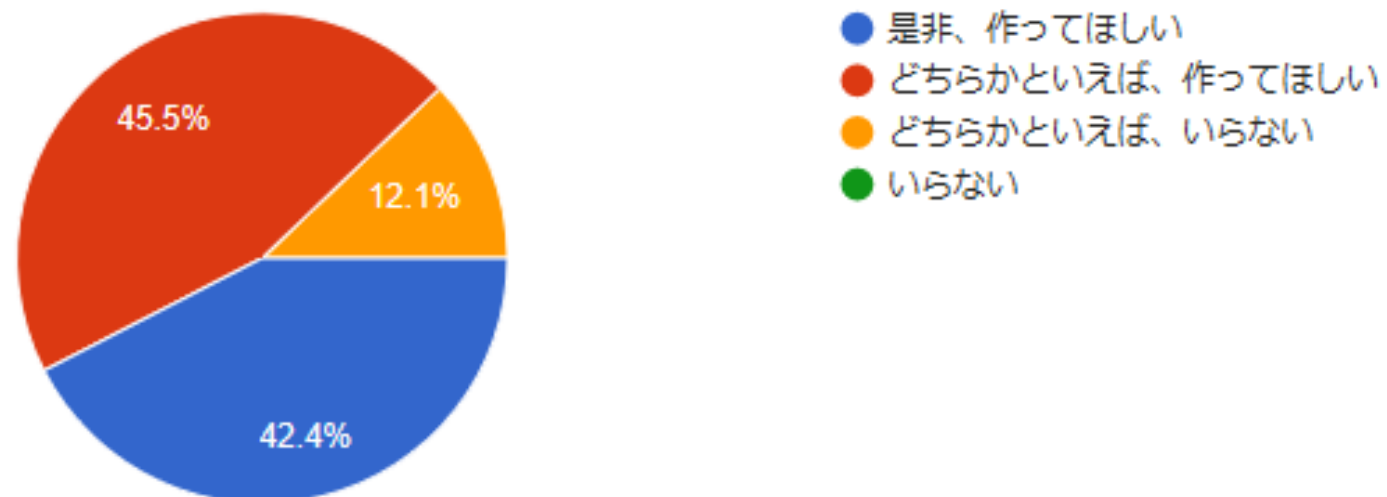
組織して数年たった後に、年次大会での若手企画、年●回の研究交流会の運営が負担になってくる

提案② 若手の会の設立 or 若手の企画の新設

■ 事前調査 結果

日本認知・行動療法学会にて、若手を中心とした組織（仮に、これを若手の会とします）を作ることにについて（例えば、若手の会が主導で、年次大会における企画シンポジウムや研究版コロキウムなど、大小様々な企画や研修会を学会のお金で若手が自らのアイデアをもちよって開催できる）

33 responses



提案③ ミート・ザ・エキスパート（仲間・同志）

■ 小集団で話せるような企画

- 若手が
中堅やその道のトップと臨床や研究について
ひざを交えて話し合える場所の提供

Take Home messages

- 若手が発信・活躍できる場の提供
- 若手参加型の学会に
- 日本を代表する若手を認知・行動療法学会から続々と輩出していきましょう